◆　教職員からの「書評コーナー」

　このコーナーは令和元年６月から始まり、書評に本の表紙（写真）も添え、校内（渡り廊下）での展示を継続してきました。本と出会い、読書に親しみ、その楽しさを是非味わってほしいという願いから始めたものです。

　今回から、「教職員からの書評」をホームページに掲載することとしました。

００１

読書する人だけがたどり着ける場所

齋藤　孝著（SB 新書・800 円＋税）

「深みのある、魅力的な人」になりませんか！

「娯楽や情報収集なら、スマホでできるじゃん」と思っている人にこそ、ぜひ読んでほしい１冊。

「そもそも読書のメリットって何だろう」と思っていた時に、書店で目に留まったのがこの本です。AI 時代を生き抜くためには、特別な知識やスキルよりも、ものごとを深く考えることができる力（思考力）や幅広い知識（教養）が武器となります。それらのベースとなるのが読解力。読書を通して読解力を鍛え、思考力と教養を身に付けた「深みのある人」を目指そう！

００２

「十 二 番 目 の 天 使」

オグ・マンディーノ著（求龍堂・８６４円）

最も感動できる人生の一冊です！

教え子の教員から教えてもらった本です。今、文庫になっていますので、チャンスです。

「生きる希望」と「学ぶ喜び」が味わえる内容です。打ちひしがれた大人と野球少年との話です。説教じみた内容は一切ありません。読み進めていくだけで引き込まれて行きます。読み終わったら、今の自分の存在意義を十分に感じ取れることでしょう。２つの言霊が頭に残ります。是非、他の方へも薦めてください。

オグ・マンディーノの他の本も素晴らしいので読んでみてください。

００３

「ドーナツを穴だけ残して食べる方法」

越境する学問―穴からのぞく大学講義

大阪大学ショセキカプロジェクト著・編集（1620 円）

屁理屈にこそ、学問の専門性・面白さがある！

この本は、「ドーナツの穴だけを残して食べることができるか」という疑問に対して、大学で最先端の研究をされている専門家が、経済学、人類学、工学、数学、精神医学などそれぞれの専門的な切り口で答えを導き出しています。そもそもの疑問が屁理屈のように感じる方も多いと思いますが、私は屁理屈の中にある理屈こそ、学問であるような気がしました。そこに面白さを見出し、大学で学ぶ意義を見出すことができたら、とても素敵なことだと思います。ぜひこの本から、自分の専門としたい学問を見つけ、学問の世界にどっぷりと浸ってみてください。